

最終更新日	2011年（平成23年） 3月 1日
-------	--------------------

校番 23	福山市立 城西中 学校
-------	-------------

1 学校教育目標

校訓 「挑戦・絆・創造」
『自主性を確立し、心豊かで主体的に行動する生徒の育成』

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命（ミッション）

学校教育目標『自主性を確立し、心豊かで主体的に行動する生徒の育成』に基づき、「安心して明るく生き生きと生活できる学校」をめざし、生徒が「来て良かった」、保護者が「行かせて良かった」、地域が「あって良かった」、職員が「勤めて良かった」と言えるような、全ての人々から愛され誇りの持てる学校づくりをめざす。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像（ビジョン）

- 1 学力の向上を図るため「基礎学力の向上」にみんなで取り組む。
- 2 学校環境美化に取り組み、自信と誇りが持てる学校風土をつくる。
- 3 ボランティア活動を積極的に取り入れ、生徒の自尊感情を高める。
- 4 めざす生徒像
 - ① 課題克服に向け、意欲をもって学ぶ生徒。
 - ② 友だちを大切に、思いやりの心を育む生徒
 - ③ 自ら考え、責任を持って行動する生徒。

3 自校の現状分析

- 1 基礎基本定着状況調査の結果は、3教科とも県平均を下回っている。学習習慣の確立と基礎・基本の確実な定着が課題であり、基礎学力を定着させる指導が必要である。
- 2 生徒の学習習慣の確立とともに本校生徒に応じた指導方法の工夫改善に努める必要がある。
- 3 「書く」能力に課題がある。全教育活動を通して取り組む必要がある。
- 4 生徒同士、生徒と教職員の信頼を深め、絆と信頼を強めるような活動を充実させ、学校総体として本校の課題を克服する取り組みが必要である。
- 5 体力テストの結果も、県平均を下回っている。種目をしぼった焦点的な取り組みと部活動の活性化が必要である。
- 6 学校教育目標達成に向けて、学校が組織として一体となった取り組みをさらに充実させていくことが必要である。
- 7 「学力向上」「環境美化」「ボランティア活動」を起点にした「学校づくり」をさらに充実、発展した取り組みにしていく。

4 研究主題

(1) 研究主題

「学習習慣の定着を図り、生徒が主体的に学習する授業づくり」

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
県	生徒指導研究推進校	2010年（平成22年）
市	少人数指導推進支援事業「数学」	2010年（平成22年）
市	教育研究支援事業「特別活動」	2008年（平成20年）～ 2010年（平成22年）

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
① 基礎学力の向上	① つまづきを把握し、わかる学習を仕組むことで、基礎を身につけ、自ら学習しようとする意欲を育てる。
② 環境美化	② 学校改革の基本として位置づけ、荒れを起こさない学校風土を築く。
③ ボランティア活動	③ 人の役に立つ、社会の一員であると自覚させ自尊感情を高め、心を育てる。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価（中間）の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
Ⅰ 確 かな 学 力	4	基礎学力の向上を図る。	★	新規	学習習慣の定着と基礎・基本の徹底を図る。	C	▽朝の学活で国・数・英の基礎的な学習を、各教科、週に1回行う。	b	□2学期中断した期間があったが、朝学活で国、数、英の学習を行うことができた。 ○朝学活で行うことは定着したが、学力向上の成果はまだ見えていない。 ◎次年度は、基礎基本の問題を行い、検証・改善を図りながら、学力の向上につながる取組みをしていく。
				継続	◇適切な宿題を出し、家庭学習を1時間以上する生徒を40%以上にする。		b		□家庭学習1時間以上の生徒は、1年24%、2年31%、3年40%、平均32%で達成率80%という結果である。 ◎毎日の漢字、英単語、自主ノートの他に、各教科宿題を出し毎日学習をしないといけない状況をつくるなどの取組みを行い、1時間の家庭学習ができるようにする。
Ⅱ 豊 かな 心	1	体験活動の充実を図り、自尊感情を高める。	★	継続	自尊感情を高め自己肯定感を育成する。	B	◇各種ボランティア活動参加延べ人数840人以上。	a	□1月末で延べ人数は688回、3月に計画している活動で指標を達成できる予定である。 ◎生徒会の自治活動を軸に、自分たちの思いを仲間の前で発表できる場をつくる。
				継続	環境美化に努め、規範意識の向上と豊かな心を育成する。		B		△掃除を頑張る生徒80%以上にする。 環境美化に努めた教職員を100%にする。
Ⅲ 健 やかな 体	1	基礎体力の向上。		継続	体力向上を目指した部活動の充実。	B	◇週に1回以上、部活動の指導を行い、部活動指導の充実を図り、部活動出席率75%以上にする。	b	□部活動をほぼ休むことなく参加したと答えた生徒は66%。かなり参加したと答えた生徒を加えると77%。部活動の指導もほとんどの教師が週1回以上はクリアできている。 ○運動部合同のマラソントレーニングに取り組むなど生徒の体力向上に効果があった。 ◎体力向上のみならず、あいさつや行事への取り組みなども部活単位で取り組んでいく。
Ⅳ 教 員 の 力 量 あ る	1	教職員の授業力の向上。		継続	意欲が持て、わかる「授業づくり」を推進する。	A	◇各教科1回以上の授業研究をする。一人3回以上授業研究に参加し、授業力が向上した教職員を100%にする。	a	□毎学期対外的授業研究を行い、一人3回以上参加し100%達成することができた。 ◎「学習意欲が持てる授業づくり」をテーマに、次年度も校内において授業研究を行い、さらに改善を行っていく
市民から信頼される学校	4	校長を中心として組織的に行う学校マネジメント	★	継続	学校教育目標達成に向けてベクトルを合わせた組織体制の充実。	B	▽3プロジェクト委員会(学力向上・環境美化・ボランティア)の実動。月1回以上の委員会開催し、全体へ報告する。	a	□3Pの委員会を毎月開き、取り組みの状況を確認し、今後へと続く活動ができた。 ○3Pの活動が、学校教育目標達成に向けた組織的な取り組みの1つとなった。 毎月1回委員会を開催することで、教職員の意識も向上してきた。 ◎各委員会で決定した内容が、全職員へ報告していくことが不十分であったので、改善を図っていく。